

網走市の観光事業の展望と課題

体験型観光の可能性を中心として

【目次】

はじめに	第3章 これからの網走市の観光事業について
第1章 「観光」に関する概念と北海道観光について	第1節 グリーン・ツーリズムとその事例について
第1節 「観光」に関する概念の変化	第2節 網走市の体験型観光の可能性(網走市のグリーン・ツーリズムについて)
第2節 平成16年度の観光の現状	第3節 観光産業と地域産業との連携
第3節 北海道観光の実態	おわりに
第2章 網走市の観光の実態	
第1節 網走市の観光の状況	
第2節 網走市と周辺観光地との比較	

【目的】

今日、北海道では観光産業は大規模な産業の一つとして発展してきた。こうした中、網走の観光産業平成4年の約230万人をさかいに減少してきており北海道内全体をみても伸び悩んでいることがわかる。観光客の興味対象が多様化してきたことや、団体旅行から少人数グループへ変化してきたことを踏まえ、これからの網走において、どのようなサービスを展開していくことが必要で、何をアピールすべきかということ北海道全体の観光を考えた上で検討していく。

また、体験型観光を網走にどのような形で発展させていく必要があるか、ということもあわせて検討していく。

【方法】

関係文献、統計表を網走市役所、インターネットから収集し、分析を行った。

【結果】

この論文では、体験型観光を中心として論じてきたが、マス・ツーリズムから個人のニーズに合った旅行形態へ変化してきたことなどにより、「体験・学習」といった観点が必要である事がわかった。例えば、流氷観光やアムロファームのようなグリーン・ツーリズムを行う環境や施設は、体験や学習をするにあたって重要なものであるといえる。しかし、それだけでは観光地の名所とはいえない。観光産業と地域産業がともに協力し合い、豊かなまちづくりをすることにより、新たな観光地として生まれ変われると考える。そうした上で、「体験・学習」といった、網走でなければできない体験型観光が生きてくる。体験型観光とまちづくりを推進することが網走の観光事業において必要な課題である。

【参考文献】

- 網走市観光振興計画 網走市経済部観光課
新しい観光振興 長谷 政弘
人間・自然・旅 - 観光学序説 - 塚本瑠一
新しい観光振興(発想と戦略) 長谷 政弘
観光と環境の社会学 古川 彰・松田 素二編
観光白書 平成17年度版 国土交通省編
アムロファーム ホームページ <http://www3.ocn.ne.jp/~amuro/>
シーニックバイウェイ <http://www.scenicbyway.jp/>